

横浜市こども・子育て基本条例に基づく
令和7年度のこどもの意見表明に関する取組状況について

1 趣旨

横浜市こども・子育て基本条例（令和7年4月1日施行、以下「条例」という）第14条の規定に基づき、令和7年度の教育委員会事務局における、こどもの意見表明に関する取組状況等について報告します。

2 条例における位置づけ

条例において、こども・子育てに関する施策を推進するに当たっては、こどもが、社会を構成する一員として、その年齢及び発達の程度に応じて、意見を表明する機会を確保し、その意見を施策に反映させるよう努めること、こども・子育てに関連するあらゆる分野における施策を講ずるに当たっては、こどもの視点を重視するよう努めること等が市の責務として位置付けられています。（第5条）

また、市長は、毎年、こども・子育てに関する施策へのこどもの意見の反映の状況等について、市会に報告することとされています。（第14条）

今回報告する取組の範囲は、施策・事業・取組への反映を主な目的として、アンケートやワークショップ、会議、意見公募、インタビュー・ヒアリングなど、こどもから直接意見を聴いているもののうち、次の内容に該当するものとしています。

- 本市（指定管理者・委託事業者を含む）が主催・共催している
- こども・若者（未就学児から20代程度まで）が意見を聴く対象に含まれている
- すべての市民等を対象とする取組については、こども・若者から意見を聴くための工夫を行っている

（例）・難しい漢字や用語を使わずに、一般向けとは別に、こども・若者にわかりやすく書かれた資料を使っている
・特にこども・若者に特化した広報PRを行っている

4 教育委員会事務局の取組状況

取 組 ①	第5期横浜市教育振興基本計画の策定に係る児童生徒からの意見把握 【教育政策推進課】
取組内容	教育委員会事務局では、子どもを中心に据え、<u>安心して意見を表明できる環境づくりや意見を形成し表明するための学びを大切に、日々の教育活動のあらゆる機会を捉えて、児童生徒との対話を重ねている。</u>第5期横浜市教育振興基本計画（以下「計画」という。）の策定に際しては、<u>こうした日々の対話に加え、特に、以下①②の取組を実施した。</u> ①小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・義務教育学校の代表校に伺い、<u>学校生活で大事だと思っていることや未来に向けて学んでいきたいことなどの思いを聴いた。</u> ②計画素案に関するパブリックコメントの一環として、<u>全児童生徒を対象に1人1台端末で子ども向けリーフレットを配布し、思いを聴いた。</u> 
対 象	横浜市立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒（①119人②9,226人）
実施時期	①令和7年6月～11月、②令和7年12月17日～令和8年1月19日
主な意見と活用方法等	日々の教育活動に子どもの意見を反映させるとともに、 ①子どもたちから、<u>「未来を見据えて自分自身のことを考えたいし、学びたい」といった意見や、「友達と共創して何かを成し遂げることが楽しい」、「自分の居場所があることが自身の力を広げることにつながる」などの思いを聴き、計画の基本的方向や素案に反映した。</u> ②計画素案に対する意見のほか、<u>日々の教育活動に対する感想や自分の将来を意識した前向きな意見、学校に対する具体的な改善点等があった。</u>計画原案に反映するとともに、<u>計画の施策・取組を進める上での参考にしている。</u>

4 教育委員会事務局の取組状況

取 組 ②	横浜子ども会議 【不登校支援・いじめ対策課】	
取組内容	<u>児童生徒主体のいじめ未然防止を目的に、いじめそのものに向き合った話し合いを学校・中学校ブロック毎に実施した。</u> <u>また、小学生から高校生が区ごとに一堂に会し、話し合いを行う区交流会も実施した。</u> <u>さらに、「いじめ防止市民フォーラム」において、「横浜子ども会議」で積み重ねてきた子どもの意見を大人に届け、大人と子どもがそれぞれにできることを対話することで、社会全体でいじめ防止の輪を広げていく。</u>	
対 象	横浜市立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒（こどもの意見数不明）	
実施時期	通年（学校・中学校ブロック毎に実施）、令和7年8月（区交流会）	
主な意見と活用方法等	<u>児童生徒主体のいじめ未然防止を目的として、いじめそのものに向き合った話し合いを学校・中学校ブロック毎に実施した。</u>また、小学生から高校生までの児童生徒の代表者が区ごとに集まり、異学年で話し合いを行う区交流会も実施した。<u>話し合いでは、「一人ひとり違うのは当たり前。価値観を押し付けないようにする」、「誰でも気軽に相談できる環境を整えることが大切」などの意見があった。</u> <u>区交流会の内容を各学校に持ち帰り、各学校の「学校いじめ防止基本方針」に意見を反映する等、各学校の取組につなげている。</u>	

4 教育委員会事務局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	第5期横浜市教育振興基本計画の策定に係る児童生徒からの意見把握	教育政策推進課	横浜市立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒(①119人②9,226人)	①令和7年6月～11月 ②令和7年12月17日～令和8年1月19日	日々の教育活動に子どもの意見を反映させるとともに、 ①子どもたちから、「未来を見据えて自分自身のことを考えたいし、学びたい」といった意見や、「友達と共創して何かを成し遂げることが楽しい」、「自分の居場所があることが自身の力を広げることにつながる」などの思いを聴き、計画の基本的方向や素案に反映した。 ②計画素案に対する意見のほか、日々の教育活動に対する感想や自分の将来を意識した前向きな意見、学校に対する具体的な改善点等があった。計画原案に反映するとともに、計画の施策・取組を進める上での参考にしている。
2	横浜子ども会議	不登校支援・いじめ対策課	横浜市立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒(子どもの意見数不明)	通年(学校・中学校ブロック毎に実施)、令和7年8月(区交流会)	児童生徒主体のいじめ未然防止を目的として、いじめそのものに向き合った話合いを学校・中学校ブロック毎に実施した。また、小学生から高校生までの児童生徒の代表者が区ごとに集まり、異学年で話合いを行う区交流会も実施した。話合いでは、「一人ひとり違うのは当たり前。価値観を押し付けないようにする」、「誰でも気軽に相談できる環境を整えることが大切」などの意見があった。 区交流会の内容を各学校に持ち帰り、各学校の「学校いじめ防止基本方針」に意見を反映する等、各学校の取組につなげている。
3	教育課程研究協議会総則部会における子ども実行委員による協議	学校経営支援課	横浜市立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒(27人)	令和7年8月19日	これからの横浜の学びについての意見交換を実施し、これからの学校がどうなっていくとよいと思うかという問いに対して、「主体性と柔軟性が大切にされる」、「デジタルが普及しAIを活用した学習が当たり前になる」などの意見があった。 学びの質の向上を図る教育課程の在り方の研究を進めるにあたり参考にした。

4 教育委員会事務局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
4	「よこはま子ども国際平和プログラム」子ども実行委員会	学校経営支援課	小学生、中学生(38人)	・令和7年8月25日 ・令和7年12月4日	子ども実行委員が「今、世界の課題だと思うこと」や「その課題の解決のために自分たちにできること」について意見を出し合い、その内容をまとめて「よこはま子どもピースメッセージ」を作成した。このメッセージは、子どもピースメッセンジャーが国連に持参し、伝えた。 また、子どもピースメッセンジャーの国連報告や国際関係者の講話を聴き、同じテーマについてグループ協議し、国際平和に向けたメッセージ動画を作成し、発信した。
5	GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラム スタートミーティング	学校経営支援課	横浜市立小学校、中学校、高等学校の児童生徒(約40人)	令和7年5月29日	市立学校の児童生徒と国際園芸博覧会協会、横浜グリーンエキスポ出展企業、本市職員等によるスタートミーティングを開催した。児童生徒からは「人とのつながり(地域の人、学校内、障害のある方や外国人等)が大切」、「地域とのつながりが薄いという課題を見つけることができた」などの意見が出された。 本取組を契機とし、学校と地域、企業等が連携・協働しながら横浜グリーンエキスポを創るという機運を醸成するとともに、次の取組につなげている。
6	グローバル人材育成のための意識調査	高校教育課	横浜市立高等学校(全日制)1、2年生(1,423人)	令和7年6月	英語でのコミュニケーションに対する意欲や海外留学への意識などについてアンケート調査を行い、英語でのコミュニケーションや海外留学に興味のある高校生が多くいることが分かった。 この結果を、市立高等学校でのグローバル人材育成の取組を一層強化するための参考情報として活用した。

4 教育委員会事務局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
7	学校統合に関するアンケート調査	学校計画課	小学3～6年生、中学生(500人)	令和8年2月16日～3月6日	学校統合を経験した児童生徒を対象に、学校統合に関するアンケート調査を実施し、「気が合う友達が増えて、学校が楽しいと思うことが多くなった」、「トイレが綺麗になったり、空調が整備されたりと環境が良くなった」、「今までの小学校の伝統がなくなってしまうことが悲しかった」などの意見があった。 学校統合による教育環境の向上について、児童生徒及び保護者の意見を踏まえた効果検証を行い、その結果を学校規模適正化の取組に活用する。
8	横浜市いじめ防止基本方針改定素案に関する市民意見募集	不登校支援・いじめ対策課	制限なし(延べ意見3,456件) ※こどもが答えやすいような表現で「やさしい版」「もっとやさしい版」の募集チラシや電子申請フォームを作成した。	令和7年2月25日～令和7年3月24日	「いじめている人がいたらその人に注意する」「皆が見て見ぬふりをせず皆で向き合っていく」「大人の人に注意してほしい。止めてほしい」「おおごとにししないでほしい」などの意見があった。 令和7年5月改定の横浜市いじめ防止基本方針に反映するとともに、子どもの意見の一覧を公表した。
9	ハートフルセンター上大岡 オープンに向けたアンケート	不登校支援・いじめ対策課	小学生、中学生(15人)	令和7年7月1日～令和7年7月14日	ハートフルセンター上大岡の開設にあたり、児童生徒にアンケートを実施し、軽スポーツエリアの名称について「バナナスタジアム」といった意見や、置いて欲しい図書について「学習漫画」などの意見があった。 意見を空間設計等において活用するとともに、児童生徒が主体的に関わることで施設への親しみを深め、自分の意見が尊重される経験を通じて自己肯定感や自己有用感を育むことにつなげた。

4 教育委員会事務局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
10	令和7年度 校内ハートフル事業 利用者アンケート	不登校支援・いじめ対 策課	中学生(321人)	令和7年11月26日～ 令和7年12月19日	校内ハートフル事業の更なる推進に向け、実際に利用している生徒を対象に利用アンケートを実施した。生徒からは、「支援員や友達と安心して話すことができる」や「支援員や友達と過ごす時間が好き」などの意見があった。 いただいた意見を集約し、校内ハートフル事業の研修で発表することで、関わる教員や支援員の意識改革に寄与した。
11	令和7年度 ハートフルスペース・ ハートフルルーム 利用者アン ケート	不登校支援・いじめ対 策課	小学生、中学生(289 人)	令和8年1月7日～令 和8年3月6日	ハートフルスペース・ハートフルルームを利用している児童生徒にアンケートを実施し、安心できる居場所や自己肯定感に関する質問を行ったところ、安心できる居場所が必要だと感じる児童生徒が多いことがわかった。 ハートフルの今後の方向性や新たな教育支援センターの開設に向けた検討の参考とした。
12	学校いじめ防止基本方針の改定 に係る意見収集	不登校支援・いじめ対 策課	横浜市立小学校、中学 校、高等学校、特別支 援学校の児童生徒(こ どもの意見数不明)	通年(学校毎に実施)	各市立学校の児童会・生徒会、学校運営協議会などの場やアンケート等を活用して、基本方針について意見を収集した。主な意見として、「相手の気持ちを考えること、違いを認め合うことがいじめ防止につながる」、「困ったときに安心して先生や友達、大人へ相談できることが大切」などがあった。 いじめ防止にかかるスローガンや具体的な取組などに、児童生徒等から取り入れた意見を反映させたうえで、基本方針を改定した。
13	中学校給食「みんなで選ぶ給食選 挙」	学校給食・食育推進課	中学1～3年生 (37,450人)	令和7年7月、12月	中学校生徒を対象に、生徒が献立作りに参加することで、生徒が食に関心を持つきっかけとなること、食の楽しさを共有すること、生徒の声を反映した献立となることを目的とし、生徒自身の投票によって献立を決める取組を実施した。

4 教育委員会事務局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
14	横浜市立図書館のサービス及び利用状況等に関するアンケート	企画運営課	制限なし(103人) ※やさしい日本語版を作成し、漢字にふりがなを付ける、ひらがな表記にする、単語を言い換えるなど、わかりやすく表現する工夫を実施した。	・市立図書館18館、図書取次所、移動図書館での実施 令和7年9月11日～9月25日 ・電子申請での実施 令和7年9月11日～10月5日	調べものや学習ができる席を充実してほしい、新しい発見につながる体験型イベントを開催してほしい、などの意見が多かった。 いただいた意見も踏まえて、夏休み期間中の閲覧席の増設等に取り組んだほか、「横浜市図書館ビジョン」に基づいた取組を進めるための参考にした。
15	のげやま子ども図書館こどもフロア整備に係るワークショップ	サービス課	小学生(16人)	令和7年8月19日	小学生から、図書館にあったらいいと思う家具のアイデアとして「集中できる場所」や「大きなソファ」などの意見が出て、設計者が什器の計画に反映した。
16	①地域図書館内装リノベーションにおけるアンケート ②地域図書館内装リノベーションにおけるこどもへのヒアリング	教育政策推進課	①制限なし(363人) ※こども用アンケートは、やさしい日本語、ひらがなを使ってアンケートを作成した。 ②小学生、中学生、高校生、大学生等(48人)	①令和7年5月1日～21日、令和8年2月20日～3月31日 ②令和7年4～5月、令和8年2～3月	閲覧席数、子どもたちがゆったり過ごせるスペース、友達や家族と利用できる座席を望む意見や、探しやすい本棚の配置への期待が多数あった。 いただいた意見を各地域図書館のリノベーションの方向性に反映した(閲覧数の数を増やす、見通しのよい安全な環境、グループで利用できるスペースの設置等)。
17	新図書館整備基本構想に向けたインタビュー	教育政策推進課	対象校の小学5～6年生、中学2～3年生、高校1～3年生(46人)	令和7年9月22日、9月26日、10月17日	現在の図書館のイメージについて、「勉強や調べものをする場所」などの意見があった。また、行ってみたくなる図書館として、「お店やカフェが併設していて気軽に行ける場所」や「友達と一緒に一日過ごせる場所」などの意見があった。 いただいた意見は、基本構想策定にあたり、目指す姿、機能などに反映した。